

議 員 報 告 書

1 議 員 名	佐々木 智之
2 期 日	2025年11月 12日 ~ 2025年11月 13日
3 研 修 先 等	徳島県勝浦郡上勝町・徳島県阿波海南駅
4 内 容 (目 的)	1日目 「彩 (いろいろ) の概要」「地域のゴミ分別について」 2日目 「阿佐海岸鉄道 DMV について」
5 報 告 事 項	<p>彩 (葉っぱビジネス) について、地域資源→需要のある場所へ付加価値をつけて展開。販路に関しても長い時間をかけて築いたものであった。さらに地域内での生産体制は地域の特性を理解したものであるとわかった。地域の横のつながりが強いことを活かし、「注文取得を早い者勝ち、ランキング表示、特定生産者注文」という制度としていた。これにより、生産者の競争意識を高め高品質な商品を出荷できる体制となった。また仕事のために自然にデジタル機器を使用できている点も驚いた。話を聞いて、同じビジネスモデルは本市では難しいかもしれないが、地域資源を見つめなおし、新たな商圈でチャレンジすることは重要だと感じた。</p> <p>上勝町の45種類のごみ分別について、リサイクル率80%以上はすごい取組であるが、これも長い年月の中で「慣れた」という住民からの声があることを知った。家には分別が楽になるようゴミ箱がいくつも置かれており、生ごみ処理機で堆肥化するなど手間がかかるように感じられる。「慣れる」ための取組として、「ちりつもポイント」を活用し、混ぜがちなごみを正確に分別するように促したり、学用品と交換できるようにするなど、ごみ分別による恩恵を高める工夫をしていた。本市では、今後ごみ処理の広域化が検討される中で、今と同じごみの出し方で処理場が広域化することは果たして便利になるか、しっかりと考えなければならない。それよりも地域で分別することでリサイクル率を高めることができれば、そのほうが市民の福祉の増進につながるかもしれない。</p> <p>2日目、DMV (デュアルモードビークル) の視察、線路・車道どちらも走ることのできる車体について導入の経緯と効果について伺った。住民の移動手段としての側面は少なく、「世界初」であることの発信力、観光資源となっていた。DMVの導入条件として高低差が大きいこと、DMVのみ走行する線路であること、分岐がないこと、雪が降らないことなどがあり、阿波海南鉄道が条件に合う珍しい事例であることがわかった。</p>

乗り心地は、とても良いわけではないが、バスと同等であった。輸送能力も約 20 名と電車と比較して少ない。

本市において、DMV 導入は条件として難しいと思われる。しかし、電車が走らなくなった線路を活用し、観光資源としたことは参考になる点がある。また民間所有の線路を活用し DMV を導入といった民間事業者の熱意と住民を巻き込んだアピールの工夫には尽力されていると感じた。地域と民間企業の連携は今後加速していきたい部分である。